



DENKEN



Environmental report 2014

人と自然、人と産業の調和 快適な営みが未来永遠に存続するモノづくり

環境レポートの発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

このたび「環境レポート2014」を発行いたしました。
2013年度における環境活動の内容と成果をまとめさせて頂いております。
当社では、「環境に配慮した企業」を経営理念の一部に掲げ、全ての事業活動により発生する環境影響を把握し、環境目的及び目標の設定、定期的レビューにより、環境汚染の予防等、環境保全活動を社内外に明示し、環境に配慮した行動を取る事を常に心がけております。

電子デバイス事業部（大分県杵築市守江1300番地）では、平成25年6月に大分県杵築市と「避難所施設利用に関する協定」を締結いたしました。この協定は、杵築市において風水害が発生した際の対応策の一環として締結されたもので、該当する行政区の皆様へ、我々の施設を避難所として御利用いただくことを目的としたものです。また、地域の方々からは、風水害対策だけでなく、近い将来起こりうるで、あろう南海トラフ巨大地震による津波発生の際にも、是非利用させて頂きたいとの声も伺っております。

当社は、平成23年4月より、自然災害や事故が発生した際に、「人命尊重を第一」に考えた事業継続活動（BCP）を展開しておりますが、今回の協定締結は社内BCP活動の枠を地域社会にまで広げたものです。

今後もステークホルダーの方々との協力関係をより深化させ、一層の環境負荷の低減、地域社会への貢献に、努力を続けてまいります。



株式会社 デンケン
環境最高責任者
代表取締役社長

石井源太

はじめに

2013年度は、富士山の世界文化遺産登録や東京オリンピックの開催決定、大分県では国東半島宇佐地域が世界農業遺産に登録されるなど喜ばしい出来事が続いた反面、伊豆大島での記録的な豪雨による大規模土石流の発生や、西日本を中心としたPM2.5による大気汚染など、自然災害や人的被害による脅威に危機感を感じ続けた一年でした。

弊社はクリーンエネルギーの創出を率先すべく太陽光発電所の企画・設計・調達・運営を手掛けております。

設置される太陽光パネルの製品寿命が短くなれば、環境的メリットは相殺されるか、逆に負荷が増えることがありますので、ライフサイクルアセスメントを重要な視点と捉え、調達段階において仕入れ先の検討・評価を十分に行い、長年に渡り、お客様が安心してご使用頂けます様取り組んでおります。

これらの活動を通じ、エネルギー消費量削減活動においては、満足できる実績で目標を達成出来たことを皆様にご報告致します。

これからも環境に配慮した企業活動を進め、社会的責任を果たして参りますので当社の活動をご高覧いただき、忌憚なきご意見をお寄せ下されば幸いです。



環境管理統括責任者
取締役相談役

大谷 信行

目次

ごあいさつ	P1
はじめに	P2
会社沿革・概要	P3-4
環境方針	P5
環境管理体制	P6
環境活動実績	P7-14
環境教育	P15
環境側面	P16
順守評価	P17
環境監査	P18
安全衛生	P19
BCP	P20
コミュニケーション①	P21
コミュニケーション②	P22
これからのデンケン	P23

編集方法

本報告書は、株式会社デンケン（主に3事業所）の2013年度の環境保全活動の実績をご紹介します。

作成にあたっては、皆さまに当社の環境保全活動の内容や取り組みをわかり易くお伝えできることを念頭に編集いたしました。

今後更に皆さまにお伝えする情報として満足していただけるものとする為に是非ご意見・ご質問をお寄せ下さい。

報告書対象範囲

報告書対象期間 2013.4.1~2014.3.31

報告書対象事業所

本社（由布市）

電子デバイス事業部（杵築市）

ML事業部（国東市）

※一部 加工センター 八坂工場を含む

報告書発行年月日 2014.6.30

今回で13回目の発行

次回 2015.6.30 発行予定

環境レポートのお問合せ先：

株式会社デンケン 環境管理委員会事務局

TEL：097-583-5535 FAX：097-583-5580

E-mail：eco@dkn.co.jp

会社沿革

- 1975年 10月 大分市大道町にて創業
- 1989年 11月 大分県中小企業フロンティア賞を受賞
- 1992年 優秀企業賞受賞（日本テキサス・インスツルメンツ株式会社より授与）
- 1994年 10月 第6回中小企業優秀新技術・新製品賞奨励賞受賞（あさひ中小企業振興財団・日刊工業新聞社）
- 1995年 11月 ISO 9002 認証取得（電子デバイス事業部）
- 2001年 3月 光造形装置で大分県「豊の国ものづくり賞」受賞
- 2001年 10月 デンケンエンジニアリング株式会社 より 株式会社デンケンに社名変更
- 2002年 5月 ISO 14001:1996 認証取得（本社、電子デバイス事業部、ML事業部）
- 2003年 4月 エコおおいた推進事業所に登録
- 2003年 11月 ISO 9001:2000 認証取得（電子デバイス事業部）
- 2006年 5月 ISO 14001:2004 認証取得（本社、電子デバイス事業部、ML事業部）
- 2006年 8月 経済産業省より「元気なモノ作り中小企業300社」受賞
- 2006年 8月 ISO 13485:2003認証取得（ML事業部）
- 2006年 11月 厚生労働省より「快適職場推進計画認定事業場」として認定
- 2007年 9月 大分県公安委員会よりパチスロ遊技機の製造認定
- 2008年 1月 エコ私募債発行（大分銀行4億円）
- 2009年 4月 ISO 9001:2008 認証取得（電子デバイス事業部）
- 2011年 4月 石井源太 社長就任 / 石井四郎 会長就任
- 2012年 11月 メガソーラー事業参入
- 2013年 4月 エネルギー事業部発足
- 2013年 6月 ソーラーファーム由布 稼働開始
- 2014年 2月 ソーラーファーム佐伯 稼働開始

ISO 認証取得状況



Management System
ISO 14001:2004
www.tuv.com
ID 9195014278

ISO14001
本社
ML 事業部



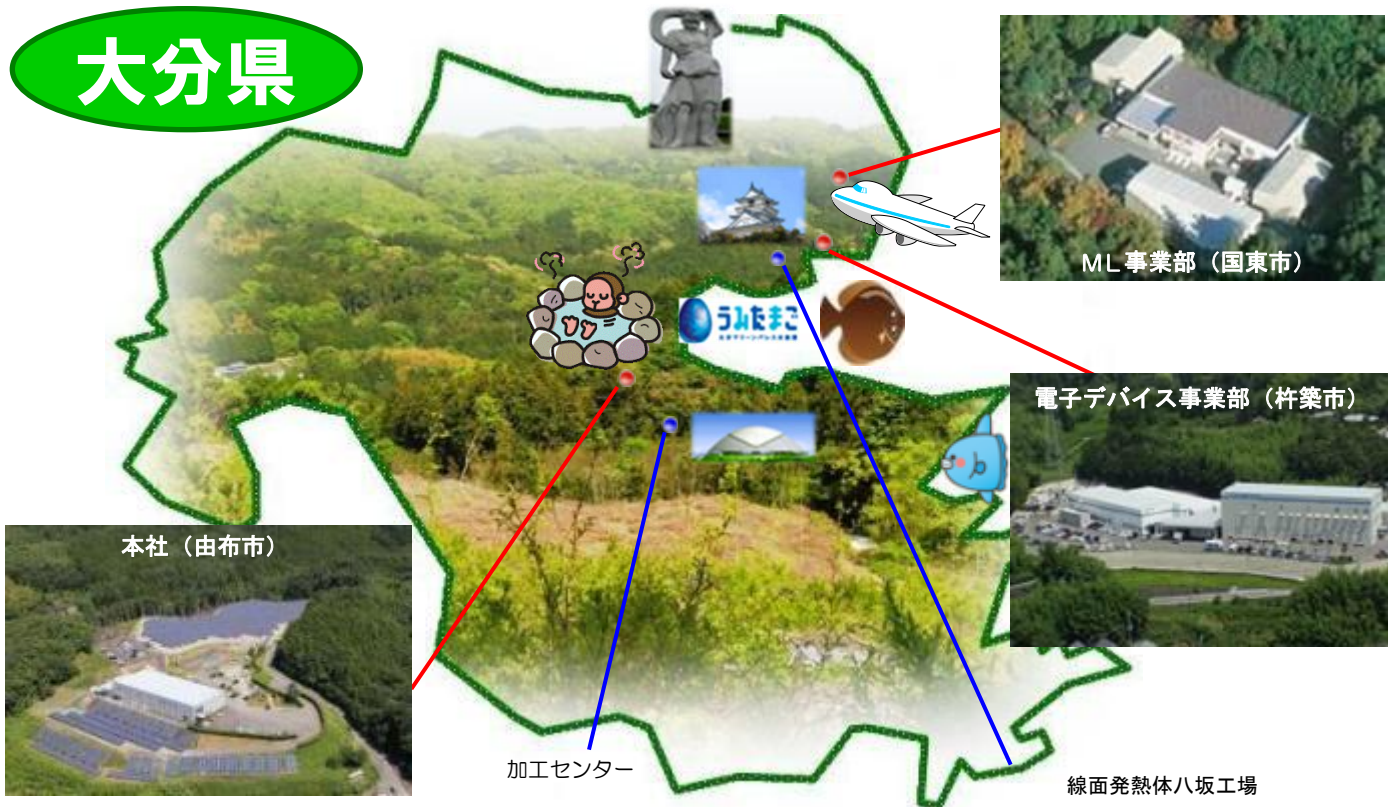
Management System
ISO 9001:2008
ISO 14001:2004
www.tuv.com
ID 9195014278

ISO9001
ISO14001
電子デバイス事業部



ISO13485
ML 事業部

大分県



会社概要

会社名:株式会社デンケン

代表者:代表取締役社長 石井 源太

所在地:本 社

□管理本部 □調達本部

□SS事業部 □PA事業部 □ソーラー事業部

大分県由布市挾間町高崎97番地1

電子デバイス事業部

大分県杵築市大字守江1300番地

ML事業部

大分県国東市武蔵町手野1560番地

設 立 :1976年6月

資本金 :7,520万円

従業員数:328名 (2014年4月1日現在 契約社員含む)



事業内容:

太陽電池検査装置

電子応用機器の研究・開発

半導体製造装置

メカトロ機器の開発・製造

各種FA自動測定試験装置

駐輪場総合管理システムの開発・製造

ホール管理用コンピュータ開発・製造

試験用電源の開発・製造

IC/LSI組立/測定/検査受託サービス

汎用パッケージ/セラミック試作受託サービス

不良解析/各種信頼性試験受託サービス

人材派遣/請負業務サービス

線面発熱体製造・販売

家庭用医療用具の製造販売

板金・機械加工

業務用電気給湯器

太陽光発電所の企画、運営・メンテナンス管理

主な製品・サービス紹介

ソーラー事業部

(Photovoltaic :太陽電池)



太陽電池モジュールテスター



太陽電池ELテスター



IPP事業

EPC事業

SS事業部

(System Solution)



ICテストハンドラー



三相交流発生装置

PA事業部

(Parking & Amusement)



駐輪場総合管理システム

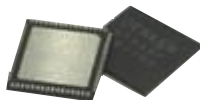


アミューズメントホール
管理システム

電子デバイス事業部



半導体製造



半導体解析サービス

ML事業部

(Medical Living)



家庭用医療機器



医科用医療機器

基本理念

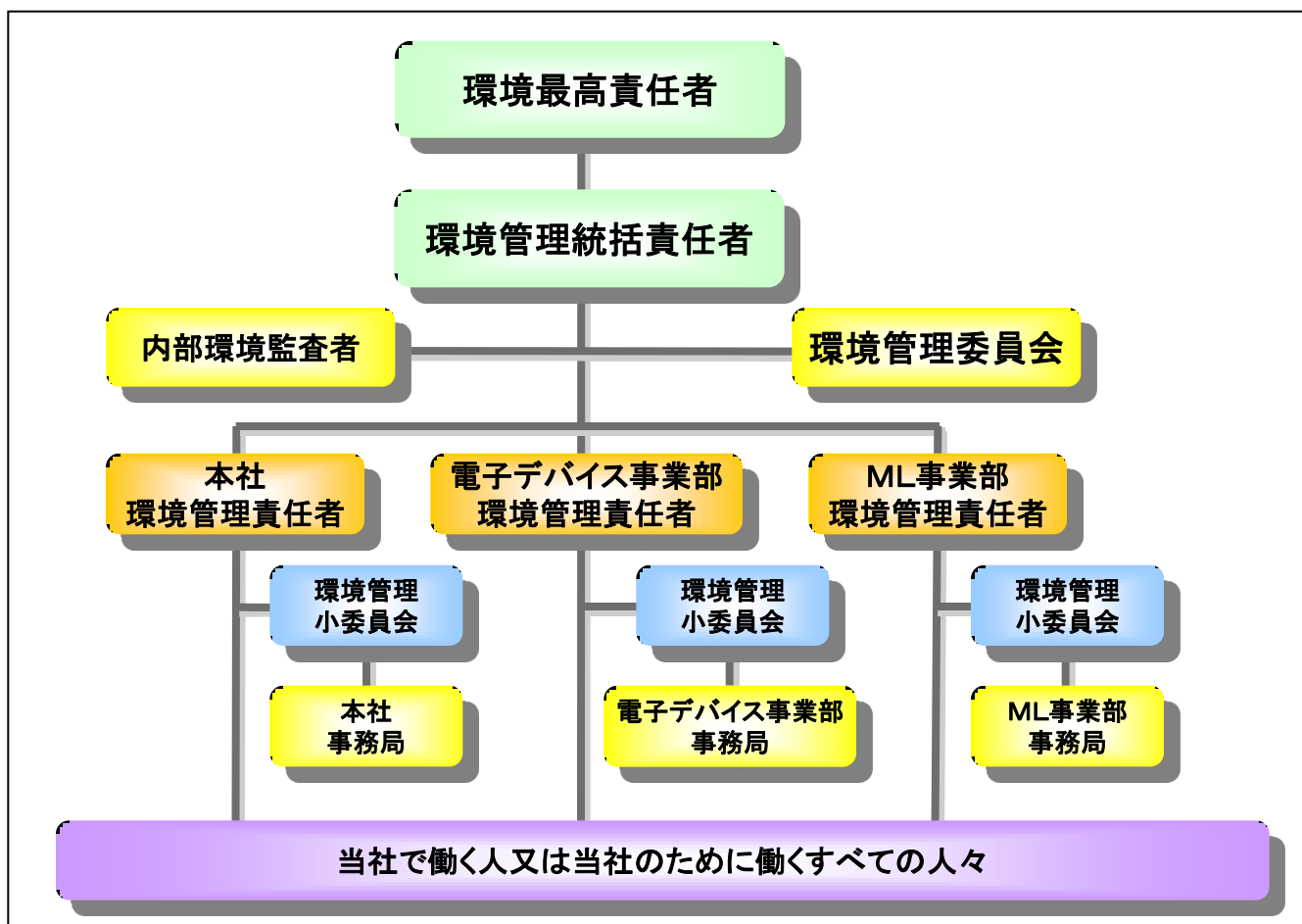
『株式会社デンケンは電子応用機器、医療用具研究開発並びに半導体組立工場として、地球環境の存続を人類最大の課題として捉え、事業活動の全ての面で地球環境の存続に配慮し、行動します。』

基本方針

『株式会社デンケンは自然と共生する恵まれた地球環境を再認識して、「私たちは人と自然、人と産業が調和し、快適な営みが未来永遠に存続するモノづくりにチャレンジします」をスローガンに掲げ、あらゆる開発・設計・組立において、次の通り環境管理並びに環境負荷の低減に全力を挙げて取り組みます。』

- ① 全ての事業活動により発生する環境影響を確実に把握し、環境目的及び目標の設定、定期的レビューにより、環境汚染の予防等、環境保全活動に積極的に取り組みます。
- ② 環境管理体制を整備し、継続的な環境保全・改善に取り組みます。
- ③ 環境側面に関連する適用可能な法規・条例等や、顧客要求事項等、我々が同意したその他の要求事項を順守し、可能な限り自主的に管理基準を定め、維持管理の向上に努めます。
- ④ 事業活動により発生する環境影響(負荷)の低減及び地球環境保護の為、以下の活動に取り組みます。
 - ・環境影響を考慮した製品の設計開発及び製造
 - ・CO₂排出量の削減
 - ・廃棄物排出量の削減
 - ・化学物質の適性管理
 - ・環境に配慮した用品の購入推進
 - ・工場敷地内の緑化推進及び工場周辺の清掃活動の実施
- ⑤ 本方針を実施・維持する為に、当社で働く又は、当社のために働く全ての人々に対し、環境方針の掲示等により周知徹底を行います。
- ⑥ 社外からの要求に対し、本方針を公開します。

環境管理体制



<補足説明>

株式会社デンケンの環境管理体制は、業種の異なる3事業所より構成しています。基本的な活動は事業所単位にて行い、各事業所の代表者が環境管理責任者として指名されています。

環境管理委員会

年に3度開催し、各事業所の進捗状況の確認・報告、改善策の検討、環境関連情報の交換等の環境保全活動の推進を行っています。
又、年度末に開催される環境管理委員会には「マネジメントレビュー」という形で環境最高責任者が出席し、環境マネジメントシステムの総合的なレビューを行います。総括は、環境管理統括責任者が行います。

環境管理小委員会

事業所毎に毎月開催し、活動の進捗状況の確認・報告、問題点の抽出及び対応策の検討等の環境保全活動の推進を行っています。
総括は環境管理責任者が行います。

項目	2013年度目標	実績	結果
環境配慮設計	本社：環境配慮設計の為の改善提案数：20件	23件の提案	達成
	ML：コントローラ設計・開発に伴う環境配慮設計	完了	達成
エネルギー消費量削減	本社：2010年度原単位実績比 3%削減	23.3%削減	達成
	電子：2010年度原単位実績比 3%削減	31.9%削減	達成
	ML：2010年度原単位実績比 3%削減	1.9%削減	未達成
CO2削減	本社：2013年度末までに太陽光発電により524t-CO2/年削減する。	達成率：135.9%	達成
廃棄物対策	本社：リサイクル率87%以上を達成する。 (加工センター・八坂工場含む)	80.9%	未達成
	電子：ゼロエミッションを継続する (リサイクル率98%以上)	96.6%	未達成
	ML：リサイクル率を73%以上とする	87.8%	達成
環境汚染物質対策	本社：情報収集及び加工センター・八坂工場の環境汚染物質管理体制構築を継続する。	進捗度：100%	達成
	電子：薬品使用量/個数=54mlを継続する	実績：120.8%	達成
	ML：塩化メチレンの使用量を調査し、代替品等の可能性の調査検討を推進。	進捗度：100%	達成
地域環境整備	本社：構内・外の周辺清掃を実施するとともに、行政・地域の環境保全活動に参加する。	周辺清掃 3回	達成
	電子：周辺清掃を3回以上実施する	周辺清掃 3回	達成
	ML：構内・外の周辺清掃を実施するとともに、行政・地域の環境保全活動に参加する	周辺清掃 2回 構内清掃 4回	達成

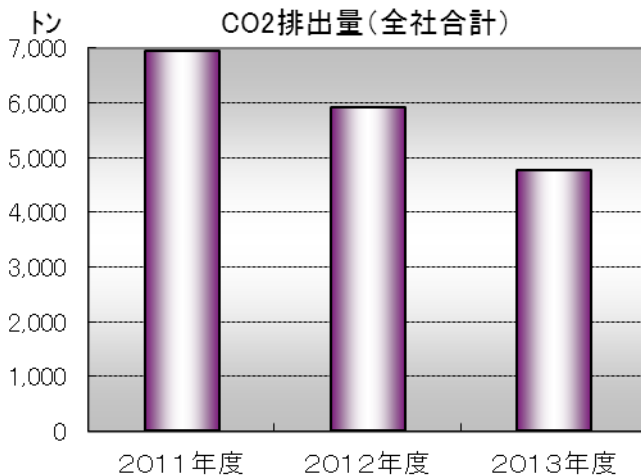
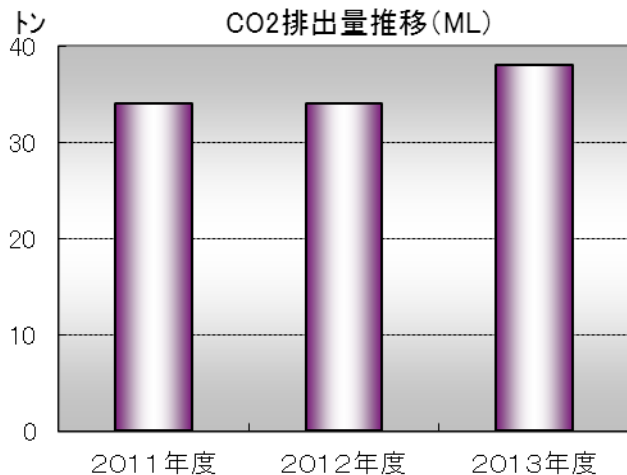
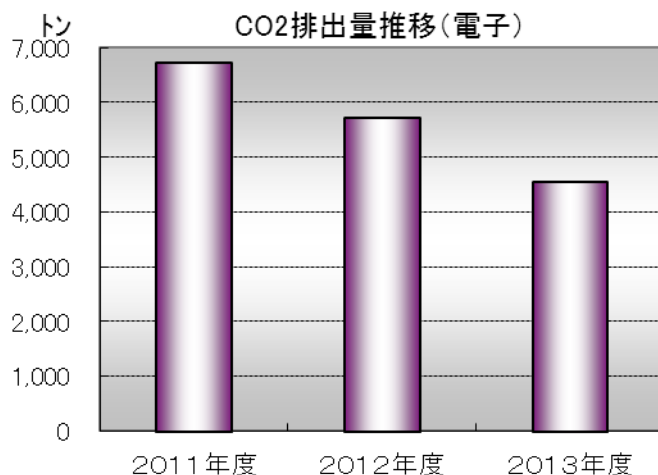
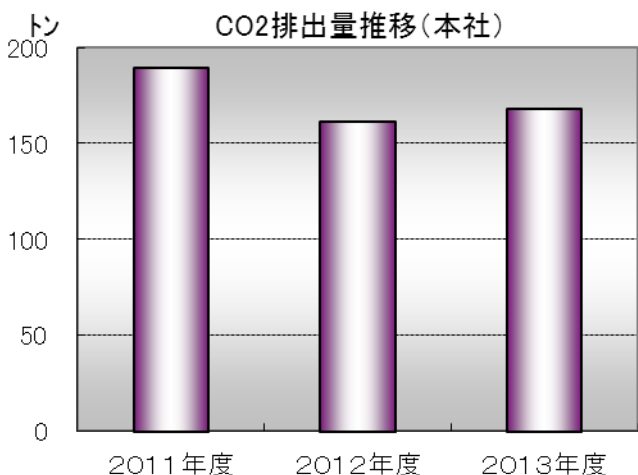
項目	2014年度目標
環境配慮設計	本社：製品ライフサイクル改善シート20件の提出を目指す。 ML：新規商材の環境アセスメントを実施。
エネルギー消費量削減	本社：エネルギー消費量を2010年度比原単位あたり4%削減する。 電子：エネルギー消費量を2010年度比原単位あたり4%削減する。 ML：エネルギー消費量を2010年度比原単位あたり4%削減する。
CO2削減	本社：太陽光発電によりCO2排出量を累計3304t-CO2削減する。
廃棄物対策	本社：2014年度末までにリサイクル率87%以上を達成する。 電子：2014年度末までゼロエミッションを継続する。 ML：2014年度末までにリサイクル率74%以上を達成する。
環境汚染物質対策	本社：環境汚染物質に関する情報収集及び加工センター・八坂工場の環境汚染物質管理体制構築を継続する。 電子：薬品使用量/個数=54mlを継続する。 ML：塩化メチレンの使用量を調査し、代替品等の可能性を調査検証を推進。
地域環境整備	本社：構内・外の周辺清掃を実施するとともに、行政・地域の環境保全活動に参加する。 電子：周辺清掃を3回以上実施する。 ML：構内・外の周辺清掃を実施するとともに、行政・地域の環境保全活動に参加する。

CO₂削減に対する取り組み

- ①照明管理
(昼休みの消灯、照明の間引き、スイッチの細分化)
- ②空調管理 (空調の設定温度管理、効率運転)
- ③OA機器管理 (昼休み、外出時等の電源OFF)
- ④低負荷設備の待機電力の削減
- ⑤レスペーパー
- ⑥コンプレッサー稼働率低減
- ⑦太陽光発電所設置
- ⑧社有車のエコドライブ推進
- ⑨COOL BIZ WARM BIZ 推進
- ⑩可燃物の削減
- ⑪高効率空調機への更新
- ⑫社有車エコカーへ切り替え

CO₂排出量の推移

※CO₂(t)換算係数: 使用電力量(KW/H) × 0.000503



<本社・ML事業部> 工場稼働率向上により、ファシリティー関連設備の高負荷化。

<電子デバイス事業部> 生産変動により空調停止や設備稼働が下がった事、非効率なコンプレッサーをインバーター式へ入替、プレハブ棟撤去によりCO₂削減効果がありました。

リサイクルの推進活動

- ①古紙・ダンボール・紙くず リサイクルの推進
- ②金属・基板・線材のリサイクル活動の推進
- ③軟質系廃プラのリサイクル活動の推進
- ④ゴミ箱（分別）の設置・識別及び見直し
- ⑤分別徹底の呼び掛け・指導
- ⑥廃棄物処理ルートの特明確化
- ⑦有価対象物の調査
- ⑧木材のリサイクル化
- ⑨乾燥剤・タバコのケースのリサイクル推進

排出物置き場レイアウト図

一般可燃ゴミ 焼却	不燃物(金属とプラスチックの混在品等) R	廃紙 R
軟質系廃プラ R	ダンボール R	廃油 R
MCO類 R	紙類 R	シリカゲル R
金属 R(鉄)	紙コップ R	蛍光灯・電球 R

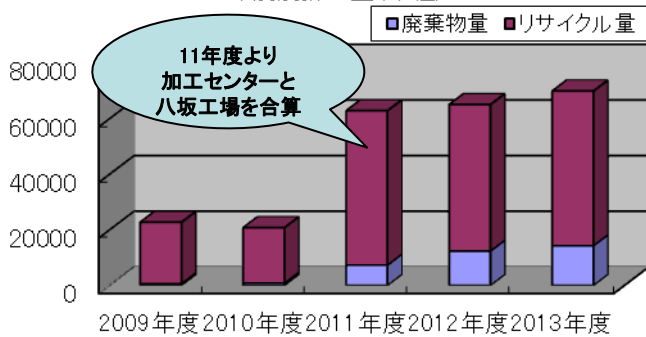


※排出物の置き場を明確にし、分別を正しく行うようにしています。

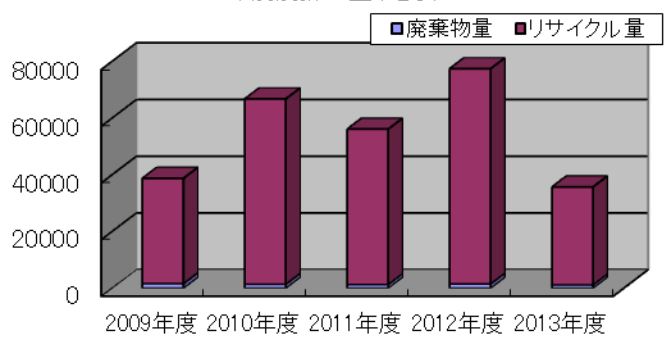
総排出量・リサイクル率の推移

単位: kg

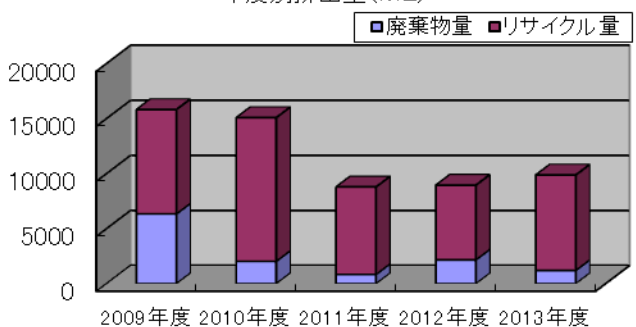
年度別排出量(本社)



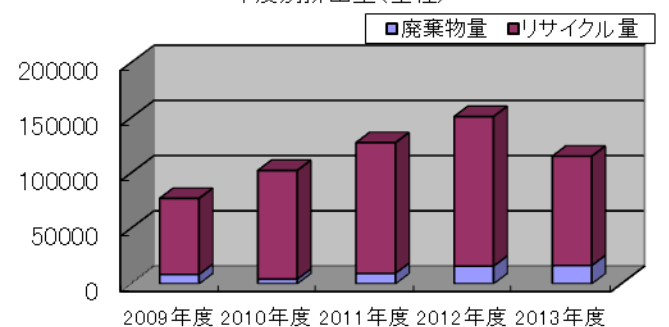
年度別排出量(電子)



年度別排出量(ML)



年度別排出量(全社)



廃棄物対策の活動推進により3事業所合計で、リサイクル率86%の水準となっています。

環境汚染物質に関する情報収集・管理体制構築

- ① 本社環境汚染物質に関する情報収集。
 - ・ R o H S 指令を始めとする各種規制の動向情報
 - ・ 鉛フリー化に関する業界動向及び、半田メーカー等の製品情報
- ② 加工センターの環境汚染物質管理体制構築を継続する。
 - ・ 必要な公的資格の把握実施。
 - ・ 有意な作業を特定し、教育実施。
 - ・ 表示物を整備する。
 - ・ 化学物質のMSDSの整備継続実施。
 - ・ 塗料・溶剤・ガスについて、入荷・保管・出庫・廃棄に関するルールの運用継続実施。
- ③ 八坂工場の環境汚染物質管理体制構築を継続する。
 - ・ 法令順守状況の把握
- ④ M L 事業部環境汚染物質の検証／年間使用数量の把握。
 製造工程の一部で接着剤を使用しています。
 接着剤を使用する工程は特殊工程と位置付けられており、接着強度の重要性が品質において求められます。現在接着強度を確保するために塩化メチレン配合の接着剤を使用していますが、今後の環境への影響を配慮して、次の事に取り組んでいます。
 - ・ 塩化メチレンに代わる接着剤の調査、検証。
 - ・ 化学物質の年間使用量の把握

本社の環境配慮設計に対する取り組み

本社の開発・設計を行う部門では、環境に配慮した設計を推進するために下記の様な取り組みを展開しています。

- ① 環境負荷低減に関する改善提案
 「製品ライフサイクル改善シート」を運用し、年間20件の目標に対して計23件の改善提案がありました。
- ② 社内に周知徹底し、広範囲からの提案を募る→内部コミュニケーション向上。
- ③ 改善内容を反映した製品毎の指標作りやルール整備。

周辺清掃活動

地域周辺清掃活動報告：3事業所において合計年8回の清掃活動を実施いたしました。

本社



電子デバイス事業部



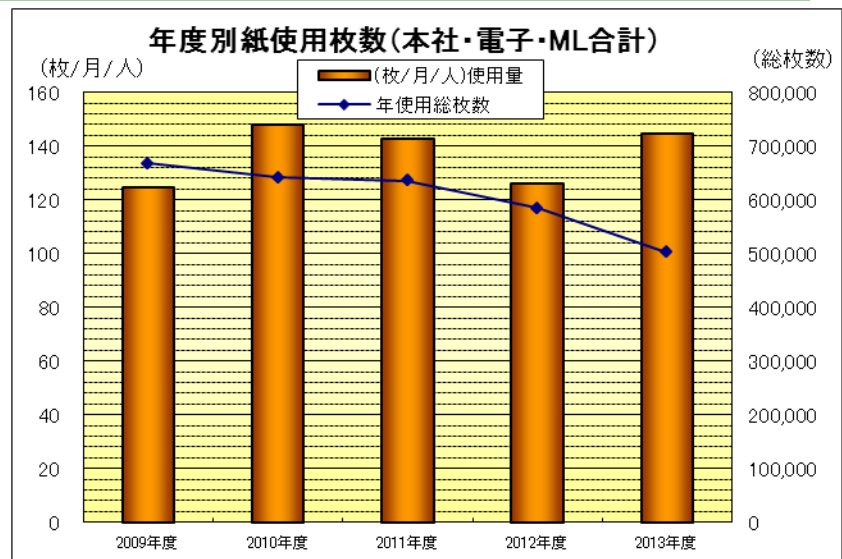
ML事業部



レスペーパー推進活動

削減項目

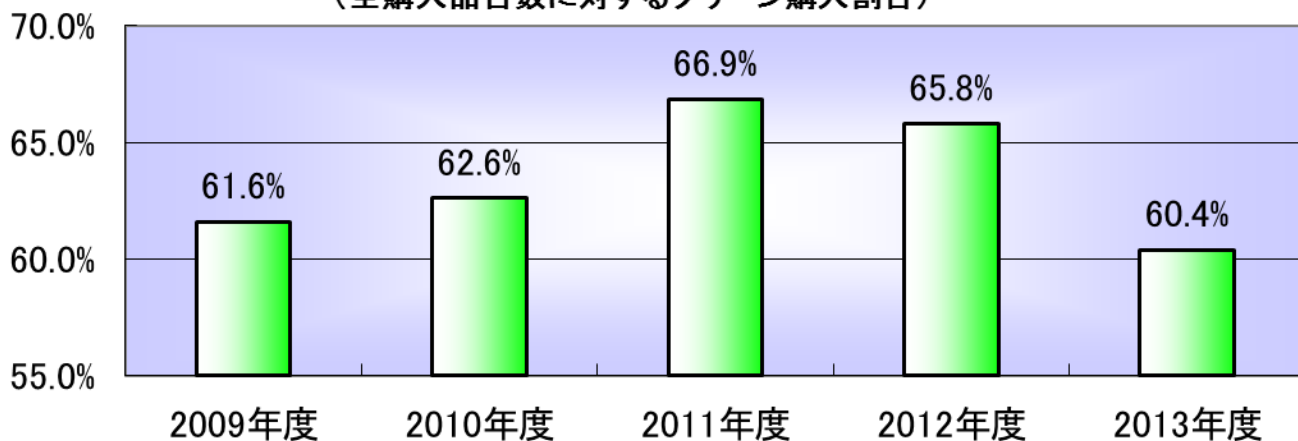
- ①裏紙利用
- ②縮小コピー
- ③2、4アップ印刷
- ④文書・記録類の電子媒体化
- ⑤印刷ミス予防
 - ・印刷前のデータ再確認指導
 - ・コピー機への裏紙セット時の確認



グリーン購入推進活動

当社が購入する用品のうち、当社独自に選定及び自主評価・認定された企業からの購入品をグリーン購入品として定義して、グリーン購入率の向上を目指す活動を行っています。また、事務用品に関しては、グリーン購入法特定調達品目をグリーン購入品として、その購入率の向上を目指しています。

本社におけるグリーン購入割合実績推移
(全購入品目数に対するグリーン購入割合)



製品環境アセスメント

製品を開発・設計する際に、環境に対しての影響を可能な限り排除した製品を実現する為に「部品調達段階」「製造工程(組立)段階」「流通段階(製品輸送時)」「運用(顧客)段階」「廃棄段階」において、3事業所で独自の評価を行い、環境負荷低減の環境目標を設定し活動しています。

本社においては、通常の製品アセスメントの他に新たに太陽光発電所に関するアセスメントルールを以下の通り策定し、各段階で評価を行っています。

- 材料調達段階での配慮
- 工事段階での配慮
- 運用段階
- 廃棄段階

以上のように、環境にやさしい製品づくりに努めています。また、製品としての評価の際には、コンプライアンスについても評価を実施しています。

電子デバイス事業部においては、環境負荷物質に対するガイドラインはRoHS指令に基づき製品環境アセスメントを実施しております。

ML事業部では、これまで外部より調達していた、製品に使用する主要部品(コントローラー)について、製品環境アセスメントを実施し、社内での内製化に成功しました。主要部品の内製化は、部品点数の削減を目的とし、共通化しました。コスト削減効果も期待出来ます。

電子デバイス事業部 避難・消火訓練 2014年4月30日

火災避難訓練

14:10 一斉放送

↓
非常ベル鳴動

↓
出火報告
出火元課長 → 自衛消防体調

↓
自衛消防隊長避難アナウンス指示

↓
管内一斉放送 → 全館避難指示 → 消火版初期消火開始
指示(タイム計測開始)



↓
出火元課長 → 自衛消防隊長
火災拡大報告
自衛消防隊長 → 消火班避難指示
↓
自衛消防隊長 → 本部隊長に消防署通報指示
↓
本部隊長 → 119番通報(実施訓練通報
自衛消防隊長/本部隊長避難開始

↓
本部隊設置



↓
点呼
避難完了随時各課点呼 → 本部隊長
本部隊長 → 自衛消防隊長
避難人員、現状報告
(タイム計測終了 5分 6秒)

↓
自衛消防隊長
終了宣言



総評
最近韓国での船舶事故での教訓で避難等が重要です。指揮/及び連絡手法の熟知の徹底を行うように。

放水訓練



消火器取扱い訓練

消火器取扱説明
杵築速見消防本部



消防隊指導
粉末は約15秒噴霧します。天井に届いているような火の勢いでは消火器では無理です。そういう場合は直ぐ避難を心がけて下さい。

消防隊指導
まずは大きな声で回りに火事を知らせる「火事だ!」次に火元の風上より消火を開始



訓練参加人員92名
消火器使用訓練(6名)

杵築速見消防本部



講評
全体的に訓練は大変良かった印象です。避難中も無言での避難が出来ていたようですが、集合場所での私語が多いように見受けられました。指示、誘導等聞き損なう場合があるのでご注意ください。

備えあれば
憂いなし



環境活動

■ 排出物（廃棄物含む）委託先の現地確認

年1回、排出物の委託先の現地視察を行っています。
排出物が適正に処理されているか確認し、今後も継続して委託するのに問題がないか、確認を行っています。

排出物委託先視察業者数 6社

A社



B社



C社



D社



現地視察結果、全ての委託先において、環境に配慮された取引先であることが確認されました。

■ AED（自動体外式除細動器）の設置

従業員及び近隣住民の方のものしもに備えて、
本社・電子デバイス事業部にAEDを設置しております。

本社



電子デバイス



■ 災害結果報告

全社において、2013年度の緊急事態の発生はありませんでした。

環境教育

環 境 教 育 概 要

	対象者	講師	実施頻度	テキスト・資料
環境基礎教育	従業員全員 (派遣会社含む)	環境ISO推進担当 総務・人事担当者	入社時	環境基礎教育テキスト
有意な作業に関する教育	有意な作業従事者 及び管理担当者	環境作業教育講師 登録リスト登録者	配属先教育時 定期: 1回/年 (5月)	該当部署作成の 環境作業手順書
環境管理者教育	課長以上の職制者 内部環境監査者	環境管理責任者 環境管理委員会事務局	定期: 1回/年 (事業年度内) 不定期: 新規対象者	環境マニュアル 環境管理者教育テキスト 環境活動計画
開発設計 担当者 基礎教育	設計開発 業務従事者	開発設計業務 従事者の所属 部署の課長 以上の職制者	定期: 1回/年 (4月)	製品環境アセスメント規定 関連業務作業手順書
			不定期: 新規対象者	関連業務に関するテキスト * 電子デバイス事業部は 品質標準 「設計開発管理規定」

環境基礎教育

入社時にまず「環境とは？」を学びます。

21世紀の環境問題やISO14001とは何か？
デンケンの環境方針はどのようなものか、
など環境に対する基礎的な知識を教育します。

入社時の教育

環境作業教育

作業するに当たって、知らなければならないことを
学びます。

各部署の環境影響評価の結果から導き出された
著しい環境側面に対する教育で、有意な作業とし
て定義付けられた工程にて行なわれる該当する作
業内容やその緊急時の対応、訓練も含まれます。

定期教育(年1回)

環境管理者教育

管理者として、実際にどう活動していくのか・・・の
土台を学びます。

環境方針の具体的内容、ISO14001の規格要求
事項及び株式会社デンケンでの運用や進め方、文
書体系などの管理者として必要と思われる環境IS
Oに関わる教育を全ての課長以上の職制者に
対して行ないます。

定期教育(年1回)

開発設計担当者基礎教育

「環境」に配慮した開発、
「環境」に与える影響を、設計を通じて学びます。

製品開発・設計を行なう部署において、一般的な
開発設計に関する基礎知識や、開発・設計する製
品固有の環境側面(著しい環境側面を含む)
等について教育を行ないます。

定期教育(年1回)

環境側面

当社における2013年度の環境側面調査から得られた、主な環境負荷の状況を表しています。

投入量

本 社

- ・電気 334,812kwh
- ・紙 343,624枚
- ・PRTR対象物 53kg

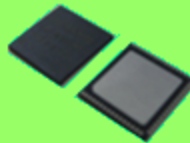
電子デバイス事業部

- ・電気 9,060,240kwh
- ・紙 91,813枚
- ・PRTR対象物 9.3kg

ML事業部

- ・電気 100,311kwh
- ・紙 50,000枚
- ・PRTR対象物 550kg

プロセス



排出量

- ・CO₂排出量 168,410kg-CO₂
- ・廃棄物量 13,410kg
- ・リサイクル量 57,044kg

- ・CO₂排出量 4,557,300kg-CO₂
- ・廃棄物量 1,192kg
- ・リサイクル量 34,545kg

- ・CO₂排出量 61,973kg-CO₂
- ・廃棄物量 1,203kg
- ・リサイクル量 8,660kg

運搬



※PRTR（化学物質排出移動量届出制度）
指定化学物質の製造・使用・その他の
取扱い等に係る管理を行なう事

順守評価

■ 法規制の順守に関わる監視及び測定

本社

監視・測定項目	頻度	測定場所	評価	関連法規
放流水水質測定	2回／年	最終放流口	○	由布市公害防止協定
敷地境界線騒音測定	町指定時	敷地境界	○	由布市公害防止協定
敷地境界線振動測定	町指定時	敷地境界	○	由布市公害防止協定

* 基準値は、各項目とも公害防止協定にて指定された値とする。

* 騒音測定については自主的に測定を行う。

電子デバイス事業部

監視・測定項目	頻度	測定場所	評価	関連法規
放流水水質測定	1回／年	最終放流口	○	水質汚濁防止法
敷地境界線騒音測定	1回／年	敷地境界	○	自主基準による管理
飲料水水質検査	1回／年	飲料水蛇口	○	水道法

* 基準値は、放流水については、「排水基準を定める総理府令第1条（別表第1）に、騒音については、自主基準値に基づく、飲料水水質については「水質基準に関する省令」に定められた値とする。

ML事業部

監視・測定項目	頻度	測定場所	評価	関連法規
敷地境界線騒音測定	2回／年	敷地境界	○	自主基準による管理
飲料水水質検査	1回／年	飲料水蛇口	○	水道法

* 基準値は、電子デバイス事業部に同じ。

● 電子デバイス事業部

東部保健所による「薬品貯蔵タンク」周辺部及び点検記録等の確認

視察風景

・確認日：2014年3月14日（金）10:00～

【確認結果】

特に問題なし 良A判断

【推奨】

壁にある配管に漏洩確認をどのように行うか
今後県より正式指示があります。



環境監査

外部審査

2014年3月3日～6日の4日間にわたり、ISO14001の再認証監査を受審しました。マネジメントシステムの規格要求事項への適合性ならびに関連手順書、作業指示の組織規定類への適合性、法令規制の順守状況等を検証して頂きました。結果としては、不適合はなく、再認証を推薦されました。

【総合評価】

組織は方針を基に部・課のレベルでの目標展開、及び進捗管理を適切に行っています。再認証監査に当たり、監査員は過去3年間の登録期間にわたる監査報告書、不適合事項関連書類及び苦情に関する記録をレビューし、マネジメントシステムのパフォーマンスについて事実を確認しシステムを評価しました。

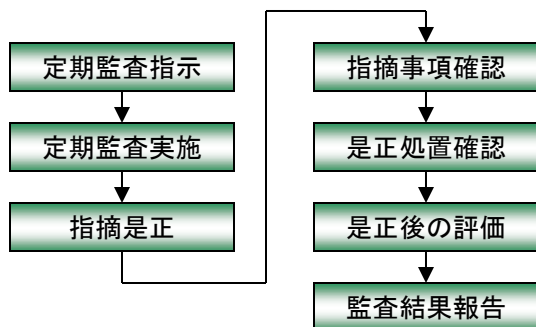


内部監査

株式会社デンケンの環境マネジメントシステムがISO14001の要求事項に適合し、計画通り実行されていることを確認し維持・改善を行なう事により、環境マネジメントシステムの継続的向上を図ることを目的とし、1回／年定期的に内部環境監査を実施しています。

2013年度においては20件の指摘事項が報告され次年度に向け多くの改善の機会の提案が得られました。

【13年度内部環境監査実施フロー】



内部環境監査者 44名

安全・衛生マネジメントシステム









■ 安全衛生パトロール(電子デバイス事業部)

'14年1月度

【安全衛生パトロール指摘・是正シート】

安全衛生管理課	衛生管理課	安全管理課
上田	斎藤	長谷川
2014年1月15日	2014年1月15日	2014年1月15日

安全衛生委員会にて安全パトロールを実施し危険箇所を確認して是正を行っております。

場所	管理部署	エリア	指摘内容	是正・処置	担当	期限	実施	備考
4棟1F	施設課	事務所	 棚上	 撤去 棚内整理	上田	-	完了	
4棟1F	製造1課	入口 通路	 掲示板 放置	 掲示板 片づけ	諏訪	1月15日	完了	1/30 撤去 (休憩所 へ設置)
4棟2F	製造2課	テスター	 設備配 線未処理	 天井上 仮設で・	只森 樋口	1/E	完了	1/29 テスター 移動 配線撤去
4棟2F	製造2課	実機	 設備- 作業台 (通風) アース線	 変更を 前提	樋口	1/E	完了	1/29 作業台 撤去

■ 安全衛生標語によるリスク回避の啓蒙活動(電子デバイス事業部)

従業員の安全に対する意識付けを行っています。

「環境」「交通」「防火」「健康」「業務」のテーマが寄せられ、優秀作品を表彰してその標語を掲示板に1ヶ月掲示しています。

安全衛生標語 2013年度 12撰

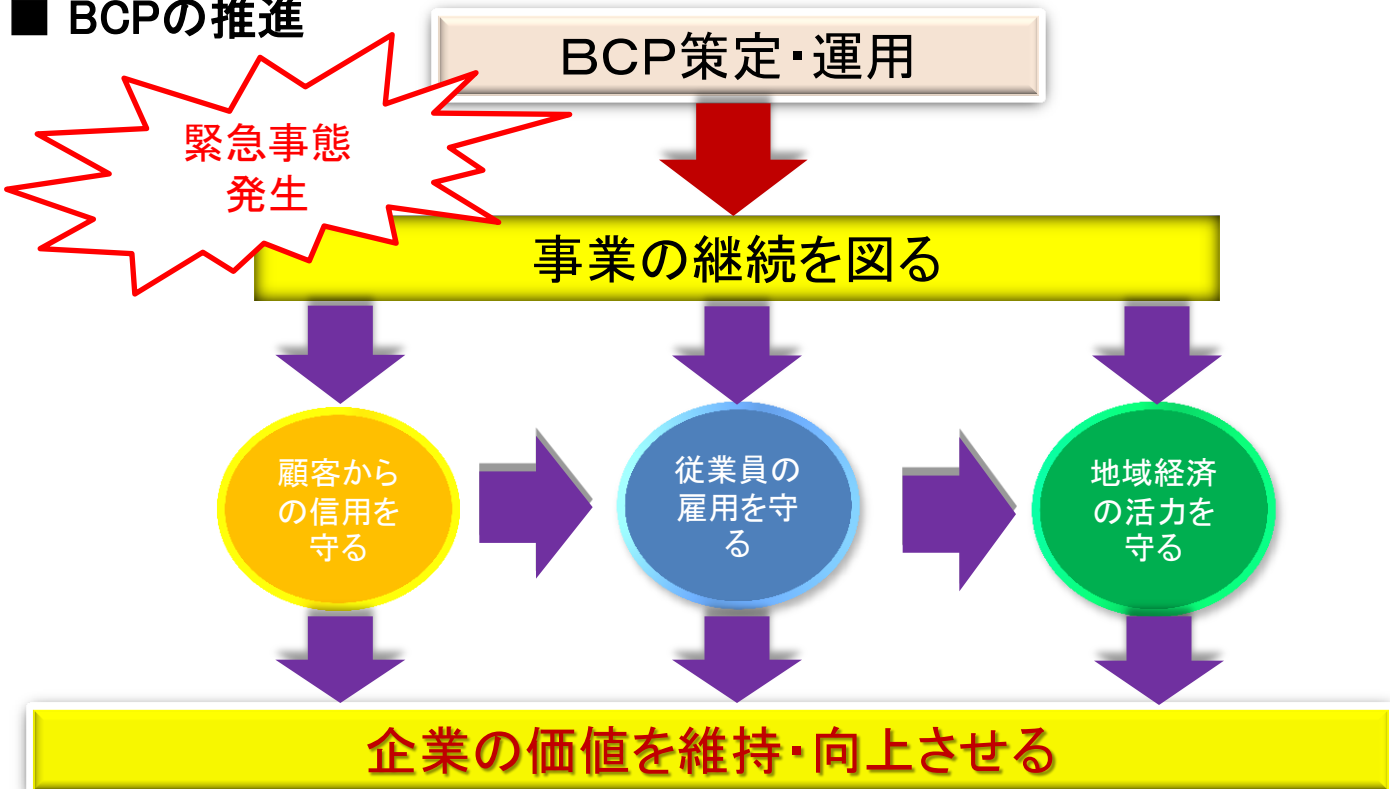
- 4月 行けるだろう 見えない死角に 潜む危機
- 5月 無災害 一人ひとりの 心がけ
- 6月 忘れるな 基本動作と 危険予知
- 7月 あなたです かくれた危険 摘みとる主役
- 8月 あわてるな 焦る判断 命取り
- 9月 油断せず 日々のチェックで 無災害
- 10月 なんか変 違和感有れば 再確認
- 11月 朝一番 元気な挨拶 明るい職場
- 12月 ありがとう 感謝は言葉で 伝えよう
- 1月 気がきが積み重なって安全になる!
- 2月 考えて まさかの出火が 持つリスク
- 3月 早起きで ゆとりの通勤 防ぐ事故



安全第一
SAFETY FIRST

BCP(事業継続計画)

■ BCPの推進



BCP基本方針

株式会社デンケンは、自然災害や事故等の、事業継続に支障を来す様々なリスクに備え、人命尊重を第一に、事業を早急に復旧し、顧客へ迅速な対応を行うために、事業継続に関する基本方針を以下に示します。

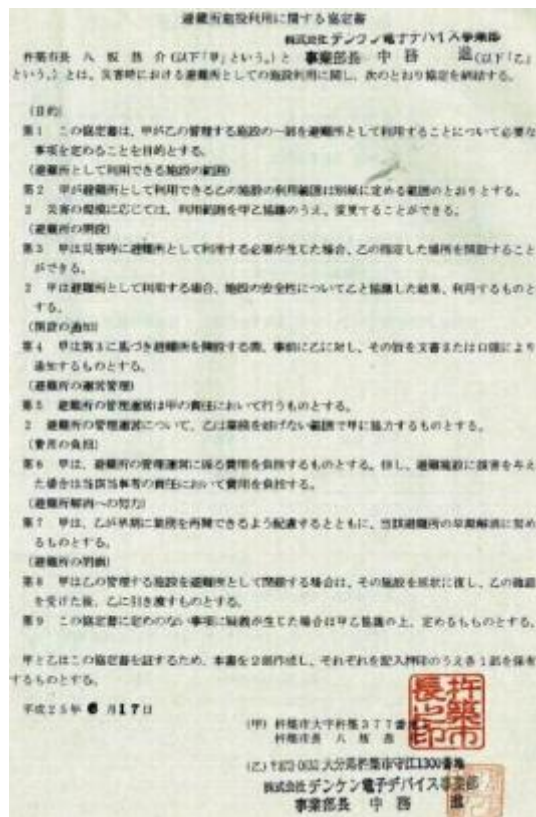
1. 従業員、協力会社、地域住民などの人命の安全確保に最大限努めます。
2. 被災住民の救助・避難、被災地の復興支援により、地域社会に貢献します。
3. 主要製品の供給継続、または出来る限り速やかな供給再開により、顧客への製品供給責任を果たします。
4. 事業を可能な限り継続し、経営への影響を最小限に留めることにより、株主・債権者・従業員の期待に応えます。



2011年 4月 1日

株デンケン 代表取締役社長 石井 源太

2013年6月17日杵築市と電子デバイス事業部は災害時における避難所として施設の利用に関して協定を締結しました。



■ 従業員の声

本社 経営管理部 三原 知也

私が普段から行っているゴミの分別や小まめな消灯、アイドリングストップ、COOL BIZにWARM BIZなどといった行動は、誰もがやっている当たり前のことになっています。

しかし、実感は湧かないのですが環境活動の一部です。

一つ一つの行動が最終的にどうなるかを考えると納得できます。

個人だけでなく企業が主体となった環境活動は年々活発になっているように思います。

本社に配属になってから毎日のように耳にするのが太陽光発電所の話題です。

直接関わることは無いと思っていましたが人手不足ということで一度、ソーラーファーム

佐伯の建設のお手伝いに参加させていただきました。

環境に優しい新しいエネルギーの供給に積極的に参加することで得られるものは大きいと思います。

無数のソーラーパネルが並ぶ光景は市街地であったり、郊外、高速道路のSAなど社内外で目にする機会が多くなりました。

環境破壊による大気汚染で死亡した人の数は世界で年間数百万人も確認されていることを耳にし、個人の活動だけでなく環境に配慮した企業の活動が多くなっているのは必然だと思いました。



電子デバイス事業部 管理部 阿部 明大

毎日、環境問題がニュースで取り扱われていますが自分達が会社の中でどんな環境問題に対し活動しているか知っていますか？

デンケンでは様々な活動をおこなっています。省エネルギー活動によるCO2削減、分別回収による再資源化、廃棄物管理等々…。これらは各自が日常業務の中で実施して会社に地域に、そして未来に貢献している活動です。

本社ではエネルギー事業部で自然エネルギーの普及として太陽光発電の建設をしており環境問題への取り組みを率先しておこなっています。

社内でおこなっている環境活動については1棟通路に掲示していますので是非、一度でもいいので足を止めて読んで見て下さい。そして積極的に環境活動に参加し、理解を深めてほしいです。

ちなみに、環境問題と言っても色々あり、会社周辺のゴミ拾いもその一つになります。

各家庭でも分別回収等、生活の一部として当然の事のようにしていると思いますので各自が出来る事から実践し、責任ある行動をとってより良い環境を築いていきましょう。



ML事業部 管理部 北村 和美



環境活動の取り組みとして、会社では、休み時間の節電や、ゴミの分別、クールビズ・ウオームビズ等様々な取り組みを行っています。例えば、クールビズ以外に夏の節電として挙げられるのが、グリーンカーテンの実施です。これは、冷房による消費電力を抑える効果もあり、CO2の削減にもなります。

また、私が実際に家庭で行っていることが、①節電に加え、LEDランプに取り換えたり、使わない機器に関しては、コンセントからプラグを抜ようにし、待機電力を減らす。②買い物に行く際はエコバッグを持っていく。③掃除をする際、掃除機ばかりを使用するのではなく、モップに変えてみる。と、このような些細なことではありますが、ちょっとした工夫が省エネに繋がるのではないかな、と思い実行しています。

小さなことでも、1人1人が意識し実行することが、地球に優しい環境作りにつながると思います。

コミュニケーション②

◆エコキャップ 2013年度

電子デバイス事業部では、僅かでございますが、ボランティア活動として社会に役立つことを考え「ペットボトルのキャップで世界の子どもにワクチンを届けよう」キャンペーンに賛同しております。

今後も継続して実施していきます。



◆インターシップ受入 実施期間：2013年10月22日～24日



ML事業部では、恒例になりました国東高校の生徒さんのインターシップ受入を実施しました。今年も2名の参加があり、デンケンの概要説明から現在展開している業務の内容、ISOへの取り組みについての講義を受け、実際に作業現場において作業を実践しました。3日間の短い期間ではありましたが、熱心に取り組み、また思うようにいかないところも経験し、大変勉強になったとの感想も頂きました。

◆杵築市花咲き街道参画 2013年5月24日

杵築市大内（国道213号線）に市主催の花咲き街道に参画しております。定期的に花植えを行い地域環境の癒しになればと思います。今後も継続的に実施してまいります。

初夏の花植えにて「デンケン花壇」も綺麗に甦りました。



◆会社見学会の開催 2014年1月15日



大分工業高等専門学校情報工学科3年生41名と先生2名をお迎えして、会社見学会を開催致しました。

実際の製造現場、自社で設置したメガソーラーの見学会を行いました。今後の就職活動の手助けになればと思います。

これからのデンケン

■ 幅広い分野への技術投入

環境・健康・農業への提案・提供を行い、これからも色々な環境を考えていきます。

環境



太陽光発電所

平成26年度 ビジネスプラン社内提案

新製品、新サービスのビジネスプラン 募集します！



- ◎製品開発に挑戦
- ◎可能性にチャレンジ
- ◎社長表彰あり



応募方法

申請書を作成して、事務局にメール送付
(申請 A、Bのどちらかを選択)

申請書A: **テーマアップ分野**

申請書B: **商品化分野**

応募期間

2014年6月1日 ~ 2014年8月31日

社内ビジネスプランにおいて、更なる会社の成長・発展をはかるべく、新製品、新サービス、新ビジネスモデルの創出をスピーディに行うことを目的に実施しております。



農業



線面ヒーターによる
安全で均一な加温で育成



血栓症診断装置
(イムノクロマトリーダー)

健康

医療用途 (健康促進)



DENKEN

株式会社デンケン

www.dkn.co.jp



株式会社デンケンは
チャレンジ25に参加しています。

株式会社デンケン環境レポート2014をお読み頂きありがとうございました。
この報告書について、ご意見・ご感想などございましたら本用紙を連絡先までFAX
下さい。今後の環境保全の参考とさせていただきますので、ご協力お願い致します。

にレ点でご記入くださいませ。

1. この環境レポートの全体の印象はいかがでしたか。

好印象 普通 悪印象

ご意見 ()

2. この環境レポートの情報量はいかかでしたか。

多い 普通 少ない

ご意見 ()

3. この環境レポートの読みやすさはいかがでしたか。

読みやすい 普通 読みにくい

ご意見 ()

4. 昨年度の環境レポートはご覧になりましたか？

はい いいえ

<ご覧いただいた場合>

昨年度と比較して 良い 同じ 劣る

5. その他、この環境レポートに関するご意見・ご感想、何でも結構ですので、お聞かせ下さい。

()

(ご送付先)

〒879-5513 大分県由布市挾間町高崎97番地1

株式会社デンケン 環境管理委員会事務局

TEL : 097-583-5535 FAX : 097-583-5580

<http://www.dkn.co.jp/> E-mail : eco@dkn.co.jp